

乳等に使用する器具及び容器包装の規格基準の見直しに  
よる容器包装への影響について

(社) 日本乳容器・機器協会

今回の見直しは厚生労働科学研究の成果に基づき、「乳」及び「乳製品」の容器包装の規格基準（乳等省令、告示等）の整合化を一義的に目途としたものであります。しかし一方で容器包装の持つ役割の一つである、最終製品の一部として消費者に対してその購買動機を喚起するという観点から、今回の見直しが製品購入時により幅の広い選択肢を提供することにより、乳および乳製品の需要の拡大につながることも可能になると判断しております。以下想定される可能性について述べます。

1. **クリームに清涼飲料あるいは食品の器具容器包装が適用可能となります。**
  - より消費者のニーズに対応したクリーム容器としての機能性（開口性、注ぎ性、再封性）の向上が可能となります。
  - 消費者の使用頻度等により使い勝手のよいクリームの容量の選択が可能となり、従来の割高感を解消できる可能性があります。
2. **2群（発酵乳、乳酸菌飲料、乳飲料）に原則的に清涼飲料水用と同様の仕様が可能となります。**
  - 容器の機能性の向上の可能性があり、例えば直接飲用に特化した開け口やより注ぎ性に考慮した間接飲用の開け口といった発想にも対応できる可能性があります。
  - ポリ乳酸を使用したコンポスト処理できる、リサイクル性に優れた容器の可能性がります。
3. **1群（牛乳、加工乳等）には製品との接触面以外は原則的に清涼飲料水と同様の仕様が使用可能となります。**
  - 容器によるマーケティング上の差別化の可能性を提供できます。
    - より機能性の高い遮光性やガスバリア性容器の提供の可能性
    - チルド流通の殺菌乳の風味劣化に対応する遮光性容器の提供の可能性
    - その他注ぎ性、開封・再封性等の機能性の向上を付加した容器の提供の可能性
    - 最終購買層（例えば高齢層）の購買習慣により適合した容器包装設計（容量、形状、機能性）の可能性

なお上記はあくまで現時点における技術的な可能性について申し述べたものであり、その具体化のためには、より詳細な技術検討が必要であることを念のため申し添えます。

以上